（七日夕刊）
磐城新聞
休刊　第一第三日曜大祭日
定價　一部二錢　一ケ月六十錢　郵稅十五錢
廣告料　壹行六十錢　指定廿錢增
發行兼編輯印刷人　蓮沼龍輔
福島縣平町田町十六番地
發行所　磐城新聞社　電話五六四番

思想問題より見たる 失業問題（一）

衆議院議員　安藤正純

◇

昔は危険思想を抱いたり過激主義に走つたりするものは、多く病弱者か、或は家庭紊亂して、温かい愛情に浴し得ない者か、或は、其四圍の環境極めて悪く、日の生活にすら窮する者か言はゞ其の生存を續けても何等將來に希望も興味も繋ぎ得ない底の人々が大部分を占めて居た。然るに最近の共産黨事件の調査の結果を見ると、これとは全く反對に身體も強健、家庭も立派、然も相當の教育を受けた者が大部分を占めて居る昔とはまるで變つた現象を示した。そしてそれ等の人々は絶對に我々國民に許容せらるまじき、かの共産主義を、恰かも眞實妥當なる主張なるかの如き信念を以て、身命を賭して之が宣傳實行に腐心して居る。たとへそうした主義者が其の數に於て、極めて微々たるものなるにせよ、斷じて斯る風潮を看過するわけにはゆかない。而してかゝる風潮は社會的に果して何を物語りつゝあるか。

◇

政治家の眼光は、絶わず現在の實國民實生活時代潮流方面並に其の尖端に向けられて居なければならない。そして、それシッカリと把握するところに所謂天津橋上時鳥の一聲開き得るのである。

共産黨なるもの、非違は言ふまでもなし。そしたものが進出し來るには、來るだけの何等か社會的缺陥があるに相違ない。罪を憎んで人を悪まず、我々はかゝる不穏分子の、現よりは、先づ不穏分子出現に對る社會的狀勢を見極めて經濟的並に社會的政策を講じなければならない。而

私は本年の初頭

現在の政權を把持する濱口內閣が、從來乘り來れる思想行政並に社會政策は何であるかを回顧したい。

◇

濱口內閣は組閣の當初、所謂十大政綱を發表し、其の中に「國民精神作興」の一項を設けて「經濟政策確立と相俟つて、國體觀念の涵養に留意して國民精神の作興に力めて民心の一新を圖る」と主張して居る。組閣半歳、彼等は果して之を實行せしや否や、

現內閣の國民精神作興具體的政策として現はれたのが前小橋文相に依つて計畫せられ、田中現文相によつて引き繼がれつゝある、いはゆる教化總動員である。而して彼等は教化總動員なるが故に超黨派的なりと云ふパラドックスを臆面もなく吹聽して、先づ以て、超黨派的に熱心に此の教化總動員に當らんとする某局長並に其の他の人々を斥けて自らそれが黨勢擴張の具たる所以を示し、次いで此の黨勢擴張の具たる教化總動員を、最も純眞無垢なる教化團體、宗教團體に無理强ひして、以て其の神聖を冒瀆し遂に之を主唱せる本人自らは不祥の疑雲に包まれて身を退き、今又之を受け繼げる田中文相さへも、兎角の噂を立てられて居る。これが内閣の教化總動員の正體たり、現内閣思想行政たるかを思ふ時、我等は餘りにもその無能なる寧ろ憫笑するのほかはない。

和歌

勅題海邊巖　小郷川吉岡獨歩

荒浪のい寄せい返し磨きたる巖ぞ御代の姿なりけり

和田の原今し明けゆく高巖にほのぼのと初光さす

打ち寄する千里の海の白浪を浴みてぞ立てり磯津黑巖

鹽屋岬燈臺聳ゆ岩山に寄せては返す大濤小浪」

俳句

同題　同人

巖頭に立つて初日に向ひけり」

張り渡す七五三繩ましき巖かな」

巖山の松ほの黑く初凪す

巖險やさては家ある初煙り」

初東風の波るや沖子岩　鳥帽

碎け散る春の潮や伊勢の　不染生

海苔寒や千鳥巢籠る沖の岩

磯菜摘む海士の小唄や岩の陰

藻潮焚　巖　あけぼの春の風

新藻若やいわほのかげなる海士か家

萬病の靈藥
「別府鑛水」
「溫泉エキス」
（アンマイラズ）
山野邊藥局

※一月　新暦　十二月　舊暦　日　八　九※

▲一白の人　身飾りを質素として分限を守れば大吉なり▲二黑の人　十分と思ひし事にも行き惱みを生ず失物注意▲三碧の人　苦るしみ多くとも後日の爲めと思ひて辛抱すべし▲四綠の人　自分で思はざりし事に圖手古苦しむ▲五黄の人　氣をしめ油斷なくむときは大望も成るべし▲六白の人　進路をまげず既定の方向に歩むが安全の日▲七赤の人　永久に亘る事を始むるには尤もよき日なり▲八白の人　金錢出づるとも苦にする勿れ後日大に入る種▲九紫の人　目上にさからはぬ樣にすべし外に在りて失物注意

講談　幕末奇傑 高山彥九郎（35）

中西洋々作　布施長春畫

江戸を吹く風（九）

「……」

相之介は無言のまゝ相手の言葉を待ちました

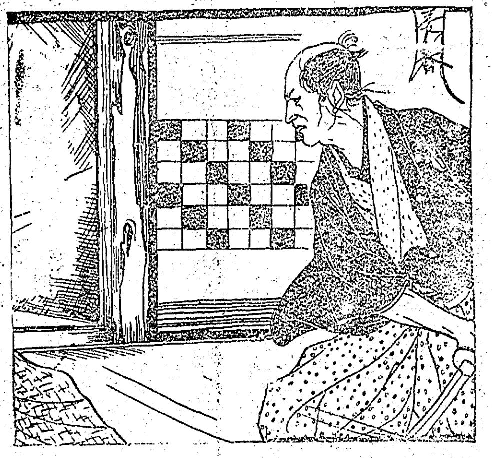
「玉之丞事、色々と御指導に預り居ること、拙者、改めて御禮申し上げる」

西村は、ちつとも言葉のゆるめずに、かう云ひました

「いや、これは、痛みいつた御挨拶」相之介は、靜かに答へました

「何もそれ程のことにわざ〳〵の御言葉にも及ばぬ」

「……」



「いや、さうではござらぬ」

西村は、少しも感動したらしくない言葉で以て反駁しました。

「父たるものが、子の師に對するに同じく師の道を以てなす、これが、常道ではござるまいか」

あまりにふさはしくない相手の言葉に相之介は言葉なく默しました

「喃、塚本殿」

西村は、それにかまはず、無氣味な叮嚀さをみせて、云ひつぎました

「ならでは、ござらぬか」

「……」

「我子の師たる御貴殿に云うて見れば、また拙者にとつてもしでござる。塚本殿は尊王の如何ぢや。拙者にも尊王の道とやらを說いて聞かして下さらぬか」

「えゝつ！」

意外の相手の言葉に流石の相之介はつとして思はず聲をたてようとしました。が辛うじてそれを堪へると相手の眞意のいづこにあるかを探るようにぢいつと、西村の面上に眼をそゝぎました

「塚本殿」

いつか、西村の聲は鋭い詰問のそれにかはつてをりました

「御返答は如何ぢや」

「……」

「我子、玉之丞等に御教授めされた、劒道以外の道をよもや御貴殿は否定なさりはすまいな」

「塚本殿、御返答は何とぢや」

「……」

「答へられい」

「……」

たが、相之介は始終、剛强押し默つて答へようとはしませんでした。

――今、彼の心には西村の心の眞意が分らなくてとやかうと途まどうものがあつたのです、西村は幕府の旗本、だがかうして訊ねる心の底には果して何があるだらうか。

「貴殿は……」

と、更に西村は訊ねかけました。

「尊王の道を、少年たちに說かれたさうだがしかとそれに相違ござらぬか」

「如何にも……」

相之介が、漸くから口をきつたときでした

「うむ、それに相違ないと仰せらるゝのだな」

「左樣！」

「たのれつ――！」

突然聲がかゝつたかと思ふと左脇から飛ぶ銀蛇のひらめき

「覺悟！」

「やつ！卑怯……」

太刀先きは誤またず隙のあつた相之介の左肩深く、ぐざつと斬りつけられました。

「むゝ」

どうしようも隙もなかつたのです。太刀は、すべて床の間に置かれて、小刀さへ側にはなかつたので、防ぐすべもなく充分油斷のあつた相之介は、唯最初の一太刀をまともに浴びせられて了ひました。しかも斬り手は旗本達一の劍士西村彥三郎です。

每月一日新學期開始

生徒大募集
（學則及び入學案內申込次第進呈す）（時間貸歡迎）

自動車界今後の大發展に順應せんが爲め、本校茲に見る所あり、有爲の青年の爲め奉仕的破格の授業料を特定し大募集を開始せり。機は熟せり、先づ來りて本校獨特の教授を見られん事を望む。實地練習の長時間にして學資の低廉なること全國無比、本校の最も誇りとする所なり。

本校出身者の受驗者は實に七割以上
十二月分の合格者氏名
甲種　佐川公一　小林清七
乙種　前川福松　猪狩幸七　鈴木三郎　片山政清　高木英男――見よ此事實を!!

本科　三ケ月卒業　三ケ月　六十圓　學科實習費共
速成科　二ケ月卒業　二ケ月　四十五圓　學科實習費共
受驗科　一ケ月卒業　一ケ月分　三十圓　學科實習費共
◎卒業生は試驗前無料練習の便あり
◎受驗準備短期練習部　每月試驗前開始十日間全學費十圓
◎時間貸値下　新フオード　シボレー一時間三圓　T型フオード一時間二圓

公認　磐城自動車學校
福島縣平町四軒町電話六四〇番

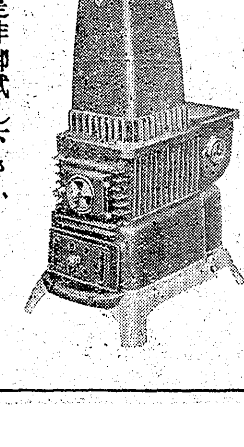
特約店　平町田町　廣瀨支店　電話五四番

夜間診療
胃腸梅毒
內科　十二指腸虫病　專門　內科部
淋病　婦人病　皮膚病　專門　外科部
松村胃腸病科醫院（平南町電話一〇七番）

新荷着ト商品全部値下
貴金屬　時計　眼鏡　蓄音器
金側寶石入アンクル腕時計　十式圓ヨリ
クロム側寶石入アンクル腕時計　六圓ヨリ
十八金　石入　指輪　四圓ヨリ
精工舍裝〇S印目覺時計　式圓ヨリ
精工舍製美術硝子置時計　式圓ヨリ
商事會社製八日卷掛時計　五圓ヨリ
外保險付領安品澤山入荷
歲末ノ御贈答品ヲ是非
皆樣ノ金光堂時計店へ　電七三六
◎時計蓄音器修繕ハ早ク良ク安ク致シマス

◎ネイションストーブ　値下斷行
◎ネンシヨウストーブ
◎スタデリナ石油コンロ
◎及、林內式石油ストーブ
連續完全燃燒、燃料經濟、調節自在、堅牢優美、價格低廉
燃料經濟新炭ニ勝ル、便利ニシテ使用簡易ナリ無煙無臭點滅調節自在ニシテ体裁優美ナリ緊縮如代ニ最モ適切的國產品デアリマス弊所ハ是ガ製造元ト特約ナシ極メテ薄利多賣主義ヲ以ツテ皆樣ノ御需ニ應ジマス是非御試シノ程願上升
日本石油株式會社特約店
ライジングサン石油會社重油特約店
諏訪電氣株式會社カーバイト特約店
茨城縣下館驛前（電話五五番）
商號　吉田油槽所
本店　關彰商店　常磐線平町一丁目（電話六一番）（九〇二番）
關彰商店平支店

清酒　醸造元　世界　吉　清水屋
銘酒　各炭鑛御用達
石城小名濱町　小野晋平　電話六番

暖爐界之征服者
ネンシヨウストーブ
經濟的連續完全燃燒
消費節約
火防衛生
優美堅牢
簡便を欲せらるゝ御方は是非御試し下さい
御請求次第カタログ進呈

（久）釜屋商店　電話九　一三九番

X光線科
外科專門
入院隨意（自炊の便あり）
平南町
上田外科醫院　電話一二九

共濟病院　各科專門
耳鼻咽喉科　醫學士　井上俊次郎
醫學博士　渡部貞助
產婦人科　醫學博士　松枝茂
外科　醫學士　氏家憲介
醫學博士　桂重次
內科　醫學博士　難波睦
醫學博士　中西林藏
×光線　醫學博士　難波睦
技師　工藤慶造
衛生試驗所　醫學博士　中西林藏
技師　小熊英夫
藥局　藥劑師　吉本孝平
本院醫事法制囑託　法學士　岡蕃
本院主管　賀澤忠治
一衛生試驗所
一病氣相談所
一救療所
（共濟病院內）
共濟病院は皆さんの病院でありますお氣付のことは御注意を願へます
磐城共濟會
看護婦見習募集　平町電話六四一番

不景氣風も吹飛んで 年賀狀百萬通
鰕で鯛釣る策戰もあり 昨年より一割三分增加

平郵便局で取扱つた十二月廿九日までの年賀狀は左記の如く二十五日頃より急激に增加し最終日の二十九日は夜間受付さへ一萬五千通に達してゐる

二十日二四二五、廿一日一九八二、廿二日二〇八四、廿三日四七一七、廿四日七七二六、廿六日二三〇〇四、廿七日四二三八五、廿八日四五〇四七、廿九日一二五八八九、夜間一四八〇五

倘三十日以降本年五日までの受付は一九一八八〇で合計實に四十八萬四百二十六通といふ多數で從つて元日の配達數を見れば二十萬四千四百三十四通で又五日までの配達總數は四十二萬九千六百七十一通となり昨年に比し一割三分の增加を來してゐるこの主なる理由は廿總選擧を見越して「平素の疎遠を謝す」と本當に一年に一回の端書で鯛をつらうとする事であ事は何人も肯かるゝ處でこの點緊縮や虛禮廢止が一寸滑稽さが感ぜられる

五里霧中の 從妹殺し事件
被害者は數年前病死 奇怪極まる自首

昨報、石城郡植田町二七、植頭德造(三七)と稱する男が去る三日兵庫縣姬路署に出頭して、從妹植頭うた(一九)を絞殺して死體を海岸へ投たと自首したる事件に就て所轄植田署では調査の結果兇行の事實は全く無根らしく五里霧中の狀態にある、即ち德造が絞殺したと稱するうたは數年前に死亡しその親兄弟も目下健在してゐるし殺害場所 照光寺墓地にはない尙德造と言ふ男もとうの昔に死亡してゐるので若生てゐれば今年六十六歲位になつてゐる筈だし德造の遺族たる貞吉(三九)と稱する男も植田町にゐた事があつたか大正十二年妻女が死亡するに悲觀して二人の子供を置きざりにして家出したまゝ行先皆目不明所か一週間程以前に京都市に引き取られた、行き倒れの行路病人は「福島縣植田町の植頭德造」と名乘つてゐた者があるそうだ。殺したと自首した男があつても調査の結果僞りだと言ふし事件は奇にして怪、探偵小說のやうな事件に縣刑事課では兵庫縣に對して不思議な事件の精査方を照會した

破天荒の 鑛業法違犯
赤井村で

既報福島縣石城郡赤井村村民の石炭盜掘事件は所轄仙臺鑛山監督局より係官が現場に出張實地檢證の結果犯跡明らかになつたので鑛業法違犯として一件記錄を檢事局に送致することになつた違反者は十數名に達する見込みで同局開局以來のレコードである

三阪山中の怪物 實は鹿毛の馬
初春早々とんでもない拾得屆に 署員口あんぐり

石城郡三坂村大字上三坂地內同村小平文吉所有畑地內に數日前から夜な〳〵異樣な怪物が現はれ道行く人達を慄してゐると言ふ噂が立つたので文吉始多數の村民が五日午後五時頃此の畑地を取り圍いて怪物狩を決行した處ろ異樣な怪物と見たは僻目で一頭の牝馬であるのに今更ながら一同呆氣取られて引上げたが此の牝馬の主が判明しないので文吉は六日やく〳〵平町まで連れ出し平警察署に拾得物として屆出たが初春早々此の大きな拾得物の屆出に平署の係員も目ばかりパチ〳〵させてゐた

赤井果樹 組合紛紜
欠損を組合員に割當てんとして

石城郡赤井村果樹聯合組合が昨秋靜岡產の富士梨と大競爭をなし石城產梨を東京方面に大輸送をなした結果遂に七千圓近くの大欠損をまねぎ是が欠損額を組合員に割當て補塡するに於ては移出した梨の代價を一文もとれぬ組合員も生ずるので組合對組合員間に重大なる問題を生じ大騷ぎを演じ又三度目の總會を開いたがこれまた幹部排斥論に始終して流會となつたが同組合の前途は全く暗雲低迷の形となつたが此欠損處分法は製產販賣を目的として組織された組合の趣旨を全然無視した暴擧であるとも噂されてゐるので今後幹部が一部反對に耳を藉さず欠損割當を斷行すれば重大なる結果を招くこととなるので今後の成行については非常に憂慮されてゐる

米價暴落と 小作米輕減から
狼狽する地主達が 小作米の收納督促

石城地方における產米は出廻り最盛期に入つたが最近米價暴落し四等檢查合格廿圓一二、十錢、末檢查ザラ米十六圓八、九十錢といふ安價を現しさらでだに減收してゐる農家では一層困り切つてゐる殊に小作人級の疲弊は全く想像以上で各地に小作米輕減運動續出し郡內で比較的小作、地主間の融和してゐる勿來町においては例年十二月中には約六千俵の小作米納入あるところ本年は約半數に過ぎず平町地方の地主は漸く一、二割を收納したゞけなので

昨今 躍起となりトラックを走らせ小作米收納を督促してゐるやうな狀態で農家の金融は昨今極度に逼迫してゐる

植田水產總會
創立事務所で

石城郡植田町株式會社植田水產會社創立總會は八日午後一時より同町創立事務所に於て開催する

平驛の待合室から 他人の荷物を失敬
間違つたのだと 綴驛から返送

平驛待合室で六日午前七時三十分頃列車待合せ中の石城郡內郷村綴磐城炭礦坑夫關根山城(三二)が便所に行つた際待合室に置いた同人の所持品衣類十五點價格百圓入りの大風呂敷が何者かに竊取されたので山城は驚いて平署に訴へ出た、ところが程經て湯本驛に一人の乘客が現れ「只今平驛から間違つて他人の荷物を持つて來たから送り返して貰ひたい」と前記山城 所持品を同驛に置き去りにした者があつた、右は一旦竊取したがあまり金目のものでもないので置き去つたとも思はれるので平署で犯人嚴探中

大家主 石島氏が
店子との 和を計る

平町白銀町石島商會では借家人との融和を計るため本年度から家賃納入成績の優良なもの又は家庭に特別な事情生じて同情すべき者等に對し獎勵金又は同情金等を贈呈する事となりこの程發表したが家賃値下げが宣傳されてゐる矢先こうした催しは値下げ問題を幾分緩和するものと見られてゐる

圍碁天狗連 初大會
四日午後三時 七十七支店で

平町圍碁天狗連の初大會は四日午後三時から平町七十七銀行支店樓上に於いて開催競技の結果入賞者は次の如くであつた

△一等岡田(記者)九勝二敗△二等山田(支店長)八勝三敗△三等槇木七勝四敗△四等田網△五等駒幾六勝五敗以上の如く頗る盛會であつた

看護婦募集
赤十字福島支部で

赤十字福島支部において創立以來養成したる救護看護婦の數は百八十二名であつて內誓約滿期にて解約せし者六十九名、死亡せし者十六名で現在九十二名と外に養成中の生徒廿八名ある右生徒一名を養成する學費、被服代が今日では約千二百圓を要すると云ふから物價低廉な時を平均するとの今日までに投せし總費額は十七萬圓の巨額に達するのである、尤も日淸、日露、北淸事變、日獨戰役に際しそれ〳〵勤務にしたがひて功績をあらはしてゐる者も少くないが最近右百八十二名の看護婦の職業別を調べてみると左の通りである

△衛戍病院勤務四名△赤十字病院勤務十三名△同外勤部勤務二名△公私立病院勤務十六名△學校看護婦四名△產婆開業六名△私立看護婦會勤務二名△家政に從事五十名

なほ本年の生徒は十名募集の筈で二月十日までに願書を提出するとのことであるが詳細は福島市舟場町の赤十字社福島支部へ問ひ合せば解る

年に似合ぬ 大膽な少年賊
手當次第に十數件の竊盜 昨日平署に逮捕

原籍茨城縣那珂郡湊町當時石城郡內郷村大字宮字瀧二十番地矢島八吉(二五假名)は去る十二月卅一日午後一時頃內郷村大字町田を徘徊中擧動不審の件で平署に檢束し取調を爲したる所意外にも去る九月中旬頃內郷村大字宮字町田坑夫風呂場の戶棚から懷中時計一個を竊取平町に向ふ途中列車內に於て年齡二十六七歲位の職風の若者に五十錢で賣却したのを始とし菓子、銅線等を專門に十數件の竊取を自白した

ツヤちゃん 窒息死亡
母の過失で

好間村北好間字權現堂古河好間炭礦坑夫渕谷勉內緣の妻金子ヤス(三二)は去る六日午後九時頃長女ツヤ(二)を就眠させようと前記ヤスが務めてゐる中夜着の襟でツヤの頭部を掩ひ窒息死亡させたもので全く母の過失であると

太田四平氏死去

好間村郵便局員太田四平氏(三二)は今七日午前六時突然自宅に於て腦充血を起し死亡したと、尙葬儀は九日午後二時自宅出棺

筆劍合同 親睦會
來る十一日 旗亭尻子で

恒例に依る平檢事局在平日刊新聞記者團平警察署三派合同の新年宴會は來る十一日午後五時から旗亭尻子亭に於いて開催する事となつた

年頭雜感□□□
三丁目 矢股生

緊縮、節約、虛禮廢止、等々全く本年の正月は不景氣な言葉が流行する、そして又一般町民 不景氣振りも可成深刻な樣だ、經濟的轉機に當つての國民的受難だから致方もあるまい。

大分問題にされて騷がれ恐れられそして期待されてゐた金解禁は愈々十一日に實行される、何か大事件でも突發するのではないかと思はれる樣だがもうこの分では無事もなささうだ、このまゝ押し切つて行く事であらう。

金の解禁はこれを建築に譬へるならば丁度地ならしの樣なものだ、今まで經濟會の發達を阻害してゐたところが木ノ根岩角までも除く樣なものだそしてこれから建築の何の支障もなく出來る樣に用意される事なのだ、けれども地ならしがよく出來たといふ事は必ずしも立派な建物が建設されるといふ事を意味してゐない、鐵筋コンクリートの堂々たるものを建てる事が出來れば木造やバラックも出來るかも知れない、要は國民の覺悟と努力次第だ、兎も角地ならしは出來たのだ、何か建つかこれからが國民試練の樣だ、金解禁が實施されたからとて氣をゆるめてはいけない、本當の受難はこれからだ、眞の不景氣はこれから來るのかも知れない。

○

緊縮だ、虛禮廢止だといふ叫びに反對に增加するのが年賀狀だ 平局の扱ても例年よりは增してゐるといふ、吾々 所に來るのも漸次增加の傾向はある、それには確に理由はある

年賀狀は或は虛禮かも知れない、けれども遠く離れてゐる親戚知友に平常御無沙異變もない時に突然手紙を書くは間の拔けた事であり又實際そうした豫猶がない、これを年頭といふ機會に一片の賀狀によつて自己の存在を明かにしそして交情を溫め得 そしたならそれも充分な意義があるではないか

たゞ今日の賀狀なるものは因習久しきに亘つた結果全く形式一片になつて仕舞つてゐるのは面白くない、漢字萬能時代に流行したところの「新高堂萬福」式の文句が何で今日の人間に響かうか

賀狀は出來るだけその人の個性を發揮し、ものでありたいと思ふ、殊にその人の趣味が表現されると誠に床かしい

この意味に於て肉筆が不もよいと思ふ「書は人なり」とその人の性格がよく表現さる然かしそれが不可能なら印刷でもよいから何かその人の創作味を添へたい文字の排列だけでもよい人眞似をした千變一律を避けたい一寸した事でもその人たしかな事が書かれてゐると誠に嬉しい、和歌をよくするものは勅題を添へるのもよからう句をよくするものは支干に因んだ考案などもよからう近頃流行の版畫などもその人の手で出來るなら誠に妙であらう

こうした賀狀に接する時目にあたりその人にあつた樣な感がして實に愉快だ芽出度年頭に當り久しく相見ざる舊友等の風貌を彷彿する何たる意義の深い事であらう。

○

年賀回禮といふ事は極めて排斥したい、全くの虛禮だ百害あつて一利もない、第一新年初頭の樂しき氣分を臺なしにして終日勞働的苦勞に過さねばならぬといふ何といふ馬鹿げた事だ

殊に宣傳の意味の回禮が自分 ありたい、そして新年などには(或は新年ばかりにも)殊に自分でありたいそれを宣傳とか義務とかのためにこづき廻はれるといふ事は何といふみじめな姿であらう

廻らる方も少しも有難くない、又お互に心得たもので名刺を一枚つゝくばつて歩くだけだ、尤も出て來られて「昨年中は……」からやらでは時間の不經濟この上なしだ、然かしこれは

とるなど言はぬばかりの帳を出し

といふた川柳があるところを見ると昔からあつた事實らしい、今日ならさし當り上るなど言はぬばかりの名刺受といふ可だらう

これは聚樂館の名刺交換會で意義充分だ改めて欲しいと思ふ

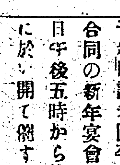
回禮がやるなら今日の多量生產主義的になく親しい町を一二軒に止めて屠蘇でも飲んでゆつたりする事にしたらいゝじやないか。

○

御年始の贈るものゝ名刺をはがしたら御歲暮が現はれたといふがこれは確かに二年越し家から家つと廻つて歩いたものに違ない、多少のユーモアを感せざるを得ないが實際に可成多い事實であらう

僧侶は魚が喰へないので木で作つた魚に味噌をつけて食膳に上せて滿足するといふが御年始や御歲暮も是せて廻はしたけでよいのなら中味を木で作つたらどんなものだらう、第一時日がたつても腐敗の心配がなくてよろしいそしてお菓子や果物なら實物以上の美術的になすばらしいのが出來るだらう

それではおかしいかな、そんなものなら廻さない方がよいと言ふ事になるかも知れない、所が實際に見せただけで廻つてゐるのだからやつぱりこれも確意味ものゝ部類に入る事にもならうさうすると御歲暮とか御年始の贈り物はやはり緊縮の至廢止されて然るべきものであらう。



樂のツカサ
初春第二之陣立面白きお芝居
大歌舞伎 活動連鎖劇 大一座
劇中には乙女丈の曲藝あり
他に類のなき天下一品と稱せられる
空中冒險飛行術
當る一月十日午後五時花火合圖開場
入場料 破格大勉強 大人三十錢 小人十錢
聚樂館 電話四七〇

○ツ石炭の特色
目方の正確
品質の優良
○ツの石炭は常に安く良くと言ふ事を信條として居ります
◎石炭は只單に一俵いくらと申しても目方が正確でなければ眞に安いとは申されません
◎當店は目方の正確を期する爲めに
正味十貫目ヲ單位トシ一俵六十錢と定めました
○ツの石炭は磐城炭礦、最上等の品で品質は常に一定して居ります大量生產ですからお安く賣る事が出來る强味を持つて居ります
○ツの石炭が他の何處の品よりも高いと御思召す場合は御手數にても御知らせ下さい。御氣に召す樣に致しますから
電話一二三七番へ
平驛前
阿部石炭商店

貸地廣告
平町郡役所より稅務署附近の新開地に五百餘坪の貸地があります、然かも完全な土盛でありますから流失其の他の憂ひ絶對になく商店、諸工場並に高級の住宅地として最もの適地を極く安値にお貸しいたします
御希望の方は電話なり被げば社員が伺ひして親しく御相談に應じます
小名濱商事株式會社
平出張所
電話 六〇三番 五四一番

◎診療開始
耳鼻咽喉科專門
日本醫大醫學士院長 鈴木正男
齒科口腔外科
日本齒科醫學士科長 高橋正永
◎晝夜診療
下谷區入谷町二二九一
入谷改正通り東交番前六間通り
鈴木醫院